

裁判員制度全国フォーラムでの説明内容と参加者の反応

◆ 説明内容 ◆

身近で信頼される司法の実現

裁判員を経験する国民が増えること、裁判の進め方やその内容に国民の視点、感覚が反映される結果、裁判に対する国民の理解が進み、司法がより身近なものとして信頼されるようになる。

分かりやすく迅速な裁判の実現

国民が参加しての裁判となることから、法曹三者とも、国民に分かりやすく、迅速な裁判にできるよう努めることになる。

法律の専門家が当然のことと捉えていた事柄について、裁判員から質問や意見が出されることにより、改めて考え直し、議論することで、裁判が国民にとってより理解しやすいものとなる。

多角的な検討を経た裁判

さまざまな人生経験を持つ裁判員と裁判官が議論することで、これまで以上に多角的で深みのある裁判になることが期待される。

社会に対する関心の向上

裁判員として裁判に参加することによって、社会への関心が高まり、社会の在り方について考えるきっかけとなる。

◆ 参加者の反応 ◆

肯定的な意見

- 犯罪防止やモラルの向上など、「社会へ関心を抱くよいきっかけになる」との意見が多い。
- 裁判に関わる責任感を実感することで、よい人生経験になり、充足感を味わえるのではないかと。
- 来場者アンケート結果 Q 1 参照

否定的な意見

- 紛争の当事者でなければ裁判などに関わる必要はなく、司法が身近でなければならぬ理由が分からない。
- 裁判員を無作為に選ぶと、裁判の質の低下につながるのではないかと。
 - ・ 専門家である裁判官と同等に審理や評議をすることができるのか。
 - ・ 真面目に取り組む人、使命感がある人ばかりではないので、やる気のない人が裁判員になり、いい加減な裁判をするのではないかと。
 - ・ どうしても感情に流されるのではないかと。
 - ・ 本来の仕事の合い間に裁判員をやっても、十分な判断ができないのではないかと。
 - ・ 被告人も専門家ではない一般人に裁かれるのは嫌なのではないかと。
- 裁判員の意見はあまり反映されないのではないかと。
- 審理期間が短くなるとじっくりと考える時間がなくなり、正しい裁判ができないのではないかと。
- 証拠などの資料を簡略化すると裁判の正確性が損なわれるのではないかと。

説明の要望が強い事項

- 現在の裁判の具体的問題点は何か、裁判員制度がその問題点をどう解決するのか。
- 制度のデメリットに関する情報提供
- 制度導入までの経緯